

どこの「英語教育」が正しいのか

無理難題の小学校英語

大阪教育文化センターは3月24日、第28回共同研究集会を開催しました。

4月から、新学習指導要領の移行措置が始まり、「特別の教科 道徳」が全面実施されるも、4月からどうする」という問題意識でとりくみました。多くの現場教職員のみなさんを含め、会場一杯の70名が参加しました。

なぜ英語教育の早期化？

共同研究集会は、「無理難題の小学校英語でも、どうする」をテーマに、和歌山大学教授の江利川春雄さんからの講演で幕を開けました。

江利川さんは、早くから英語教育を始めても効果がなく、むしろ年長者の方が英語力が伸びることを

さまざまな研究データから明らかにしました。

それではなぜ、このような英語教育の早期化がおこなわれるようになったかについて、ズバリ安倍政権の政策がその根底にあると解明。2013年に自民党教育再生実行本部が「成長戦略に資するグローバル人材育成部会提言」を出し、その中で「トップを伸ばす戦略的人材育成」が打ち出され、一部のエリートづくりのために英語教育の早期化がすすめられていることを明らかにしました。結局、英語教育の早期化は、子どもたちのためではなく、安倍政権のすすめる経済政策に子ども達を従属させるものという本質を持つものです。

英語嫌いをつくらない！

そうは言っても、この4月から移行措置がおこなわれるも、それではどう対応するか」と話をすすめ、目標を「英語嫌いをつくらない」ことに置こう、と提案されました。

そして、ことばを楽しむ子を育てること、英語を教え込もうとせず、主体的に学び合う集団を育てることが大切と強調しました。

講演を聞いた参加者からは、「小学校英語に対する不安な気持ちの要因はいくつかあるが、江利川先生の講演を聞いて、それが大部分解消された気がする」という感想が寄せられるなど、大好評でした。



実際の現場では、どの場面が来るのかわからないので予測を立てる必要がある。生徒一人ひとりの特性を理解し、どう対応していくか、事前に職員間で確認しておくことが求められます。例えば毎日の授業時間や、ちよつとした休憩時間の合間や、放課後のクラブ指導、廊下を歩いているときにたまたま話しかけてくるなど、いつでもアンテナを張っておく必要があるのです。なかなか大変です。

生徒の前では、みな同じ先生。今日からあなたは「先生」で、子どもたちから見たら1年目であろうと、30年目のベテラン教師であろうと関係ない世界に立つということ。生徒を愛し守れる存在になれるようにがんばってください。

生徒の話の背景にあるもの。その生徒の会話の背景に何があるのか、「生徒の思いはどこにあるのか」について、雑談をしながらそれを見極めないといけないこと。

大切な職員間の会話。同僚の職員をはじめ、他学年の教員や管理職、校務員さんや事務職員さんと綿密に情報の共有をしておくことが本場に必要だと思えます。

生徒の前では、みな同じ先生。今日からあなたは「先生」で、子どもたちから見たら1年目であろうと、30年目のベテラン教師であろうと関係ない世界に立つということ。生徒を愛し守れる存在になれるようにがんばってください。

生徒の話の背景にあるもの。その生徒の会話の背景に何があるのか、「生徒の思いはどこにあるのか」について、雑談をしながらそれを見極めないといけないこと。

大切な職員間の会話。同僚の職員をはじめ、他学年の教員や管理職、校務員さんや事務職員さんと綿密に情報の共有をしておくことが本場に必要だと思えます。

生徒の思いはどこにあるの？ 「おおさかの子どもと教育」91号 掲載の森本翔太さん（泉南市・中学校）の「教育の現場から」の一部を引用します。

「戦争法」を廃止させよう。子どもたちや自衛隊員を戦場に送るな。